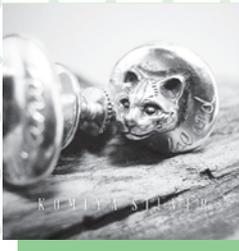


こうほう ショッキング

Vol.88

Kōhō shocking



●プロフィール

29歳 上県町佐護出身、在住。4人きょうだいの二男に生まれる。上対馬高校を卒業後、福岡にある歯科技工士の専門学校に進学。福岡市内の技工所に6年務め、26歳の時帰郷。忙しい毎日に少し疲れていた心と体を故郷で休めながら、アルバイトをしつつ技工士の技術を生かせる銀細工に取り組み始める。現在、比田勝港国際ターミナル内の船舶代理店「対馬ジェットライン」に勤務しながら、自身のブランド「KOMIYA SILVER」のデザイン・製作・販売を手掛ける。同居の家族は両親と弟、福岡から一緒に帰ってきた猫3匹。

○少年時代の思い出は？

小学校3年から4年の夏休みに、空き缶を使って鉛の湯飲みを作りました。大きい空き缶の中に小さい空き缶を入れ、その間に溶かした鉛を流し込んで型を取って作りました。材料の入手先は、地元の海岸。ここ湊地区はもともと漁師の多い地区です。「かつぎ」と呼ばれる潜水漁で使う重りや、釣りの仕掛けに使われた鉛のくずをかき集めました。

○一度は対馬を離れ、戻ってこられた経緯をお聞かせください。

対馬の若者なら、一度は対馬から出たいと思うものかも知れません。僕もその一人。高校生の頃から対馬を出たいという思いはありました。モノ作りが好きで、それを生かせる仕事を探している時に、歯科技工士という職業を知り、進学して就職。仕事は嫌いではなかったけれど、作業が深夜まで続いて体調を崩し、見かねた兄が帰郷を勧められて。帰ってしばらくは気力もなかったですね（苦笑）。対馬では大手の歯科技工所が入っていて仕事がなく、夏休みシーズンの三宇田浜の監視員や、ヨコワの受け渡しのバイトをしま

した。仕事しながらきれいな海を見ていて、対馬はこんなすてきな場所なのに何も無い、じゃ、自分の技術を生かして銀細工をしてみよう、って思ったんです。銀歯と銀細工って、精密細工という点では共通していて、道具もほぼ流用できるので。

○銀歯との違いはデザイン性という点ですが？

確かに。でも僕、デザインにも興味があって。制作活動に煮詰まると、海辺をぶらぶらするんです。ウニの殻や石ころ、漂着物を見てみると、その模様のすざさに驚かされます。自然の中の形に、たくさんの美しさがあったんだと気づかされました。

○小宮さんにとって対馬は素材の宝庫だったわけですね。

そうですね。そんな中で出会った素材に、海松と言われる黒珊瑚があるんです。とても固くて、研磨したら黒水牛のような光沢が出て、ツヤの中に年輪のような模様も見えます。このあたりではプラスチックが主流になる前の釣り道具の材料に使われていたそうで、今では浅い海域には生息しないため、定置網に魚と一緒にかかってき

たものを分けてもらうくらいしか手に入らないんです。対馬のレア素材として使えるんじゃないかと思っています。

○改めて、対馬の生活はいかがですか？

こちらのほうが、ストレスがなくて楽ですね。内地にはお金を出せば手に入る物が多いけれど、対馬にはお金を出しても手に入らないものが多い。それが魅力です。海辺を歩きながら漂着物を観察したり収集したりするビーチコーミングも楽しいです。そこから装飾や作品が生まれるのも面白いですね。対馬には木工細工やてぼ作り、硯作りなどモノ作りが好きな人が多いと思います。僕は、対馬で最初の銀細工職人になって、地域貢献したい。普段あまりアクセサリーをつけない人たちも、何かの記念日や贈り物に使ってもらえたらって、思います。

毎回、登場してくださった方に次の方をご紹介いたたくこのコーナー。次回は豊玉町仁位にお住まいの野北香織さんです。お楽しみに。